

### フレンドリータウンデイズ

9月 11日



試合開始前のスタジアムを盛り上げるあゆみ太鼓

鹿島アントラーズFCのかすみがうら市の日に、千代田果樹観光協会や物産会が特産品のPRと販売コーナーを設置。ナシの試食のほか、クリやトマト、バナナ、落花生などが販売されにぎわいました。

### 忠魂碑看板を設置

9月 10日



戦争中に亡くなられた方々をまつり、平和を願うために建立された忠魂碑を子どもたちにも分かりやすく説明する看板

市遺族会では、市内9カ所に建立されている忠魂碑・忠霊塔の前に石碑についての説明看板を設置しました。今回は、下大津・美並・牛渡地区の3カ所に設置、残り6カ所は次年度以降順次設置される予定です。

### 「はるかぜ感謝祭」に美化活動とナシ狩り

9月 24日



東風小学校(守谷市)も合流してナシ狩りを体験

東風高等学校では、地域への感謝の意を込め、沿道のごみ拾いを行うと同時に、自然豊かな市の特産品である果樹や生産者に直接触れる機会を持つと全校生徒を対象に「はるかぜ感謝祭」を行いました。生徒は、高校から「わかぐり運動公園」の往復など、高校周辺の沿道を5コースに別れ、空き缶やペットボトルなどのごみを拾って歩きました。果樹狩りでは、2軒の観光果樹園でナシ狩りを行い、秋のかすみがうら市の味覚を堪能しました。



千代田大橋を渡りわかぐり運動公園まで清掃をする生徒

### 総合防災訓練で震災に備える

9月 26日



(上)バス車内の負傷者を救助する女性消防団等 (下)倒壊建物から負傷者の救助作業をする消防署員

茨城県南部を震源とする直下型地震が発生したとの想定のもと、第一常陸野公園で総合防災訓練を開催しました。訓練では、関係機関との連携や倒壊建物からの救出、電気や電話のライフラインの復旧作業などの確認が行われました。平成7年に6千人を超える死者を出した阪神・淡路大震災では、7割以上が窒息・圧死で、65歳以上が約半数を占めました。救助され生存したケースの多くは近所に住む人に助けられたと言われます。日頃から近所での「声かけ」を心掛け、地域での防災意識を高めましょう。



消火器の使い方を体験する子どもたち



言語の壁を乗り越え、オーストラリアで心通じ合えた7日間

#### 菅澤 庄治団長(南中学校校長) 報告

今回は、昨年度の新型インフルエンザの流行によって中止になった分まで含めて2学年分の60人という大勢の生徒が参加しました。まずは60人の生徒全員が大きな事故や病気もなく無事に帰国できたことが、私たち引率者6人にとって何よりのことでした。

「少年のつばさ」のメインである3泊のホームステイもキラウィーハイスクール訪問も、生徒の皆さんが一生懸命英語を話し、「自ら進んできはきはき」というモットーを実践

#### ホストファミリーと緊張のご対面



市内4中学校の2・3年生60人が、オーストラリアの学校との交流やホームステイを体験する「少年のつばさ」に参加しました。生徒にとって、英語研修であると同時に異文化に触れ、自国を見つめ直す貴重な経験となりました。

「少年のつばさ」のメインである3泊のホームステイもキラウィーハイスクール訪問も、生徒の皆さんが一生懸命英語を話し、「自ら進んできはきはき」というモットーを実践

山口 裕和さん(南中学校2年)

僕にとって初めての海外。ホームステイでは、温かい家族の方達と触れ合い、現地校の訪問では、同じ年齢の人と交流することができ、貴重な体験となりました。また、美しい自然や、今まではテレビや本だけでしか知らなかったカンガルーやコアラを実際に見ることができました。まさに、「百聞は一見にしかず」でした。

#### 行程(8月19日~25日)

- 19日(木) = 空路シドニーへ
- 20日(金) = シドニー市内研修(オペラハウス、ミセスマッコリーズチェアー)、マンリー市内でホームステイ
- 21日(土)・22日(日) = ホストファミリーとの個別活動、ホームステイ
- 23日(月) = キラウィーハイスクール生徒との交流会
- 24日(火) = 世界遺産ブルーマウンテンズ、フェザーデイル動物園観光、空路成田へ
- 25日(水) = 成田着

Thank you for all people in Australia  
私は、少年のつばさに参加して、オーストラリアでは英語の大切さを実感しました。世界では、英語が基本で、その上に様々なことが成り立っていることを学びました。だから、その英語をしつかりと身につけて、将来に役立てたいです。また、今回お世話になった皆様に、心から感謝したいです。

#### 宇都木 美穂さん(北中学校2年)

私は、日本では見られない素敵な景色に感動しました。日本にはない植物、生き物、自然、そしてオーストラリアの人々に触れて、私は世界への大きな一歩を踏み出すことができたと感じました。でも、英語で会話をするのが難しく、自分の英語力の無さを痛感しました。ですから、これからはもっと積極的に学習に励みたいと思います。

